

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

まず、次のような①単語暗記の実験をしてみましょう。これはドイツの心理学者エビングハウスが、百年以上も前におこなった有名な実験です。

次の三文字単語を覚えて下さい。

- (いるめ) (くとし) (かでさ) (たとほ) (すとえ)
 (おえね) (むたら) (かふわ) (けんよ) (みまそ)

まったく無意味な単語が十個並んでいます。真剣に覚えてください。単語を思い出すテストをします。

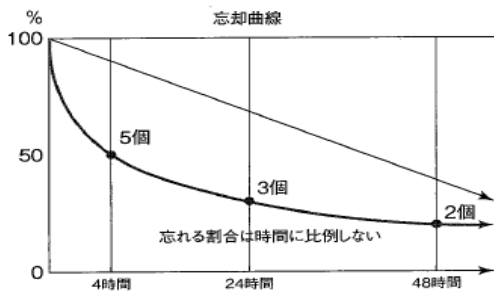
暗記するときに注意してほしいことが二つあります。第一点は、(A) 合わせなどを使わず、そっくりそのまま「丸暗記」ということ。第二点は、覚えたあと、テストまでの間に絶対に復習してはならないということです。これは「忘却」のテストです。この約束を守らないと、「忘却」の実体が見えてきません。

さて、皆さんは、いま覚えた十個の単語を、この後どのくらい長く覚えていられるでしょうか。「私はこういう暗記が苦手なんだよな」とか「でも記憶力のいい人は、きっと楽に長時間覚えていられるんだろうな」とか、そんなことを考える皆さんもいるでしょう。

(B)、テストをしてみると、単語を忘れる速度は人によって違わないことがわかります。個人差はありません。誰でもだいたい同じように忘れていきます。しかも忘れることは、意識ではコントロールできません。どんなに②祈つても、いつかは忘れてしまいますし、逆に、早く忘れようと念じてても、すんなりと忘れることはできませんでしょう。

このテストで、単語がどのようなスピードで忘れられていくかを調べたグラフは「忘却曲線」と呼ばれています。一般的な結果を図に示しました。

グラフをよく見てください。直線関数ではありません。忘れるスピードは一定ではないのです。



() ② () はじめの四時間で一気に半分くらいを忘れてしまいます。けれどもその後は、残った記憶がわりと長持ちし、少しずつ減っていきます。そんな傾向が曲線グラフから読み取れます。

先のテストの平均的な成績から言いますと、四時間後には暗記した十個の単語のうち、五個程度しか思い出せなくなっているはずです。() ③ () 二十四時間後にテストを行ってみると、覚えている数は三から四個であるのが普通です。四十八時間後では二から三個くらいです。

ということは、テストの直前に切羽詰まってしまうたら、前日の⑤シンヤにがんばって暗記するよりも、試験の日の朝、早起きして詰めこんだ方が、テストの時間までより記憶の持ちがよいということになります。忘却曲線にしたがえば、テストが始まるまえ四時間以内でないと半分以上を忘れてしまうことが分かります。

ただし私は、テスト直前の知識の詰めこみは推奨しません。その理由はあとで説明しましょう。

(C)、皆さんの成績はどうでしたか。こうしたテストは⑥ゲンミツに行うのは難しいので、もしかしたら少し違う結果が出たかもしれません。もし、この忘却曲線よりも成績が良かったら、それはきつと丸暗記で記憶していなかったか、もしくは覚えた単語が、あなたにとって何か特別な意味を持つ単語だった可能性があります。このテストはあくまでも無意味な単語に対する丸暗記の効果をみる実験ですから。

逆に、もし成績が悪かったとしたら、それははじめからきちんと覚えていなかっただけか、もしくは記憶の干渉の結果だと思われます。記憶の干渉については、これから詳しく解説します。いずれにしてもここでは、忘れることには個人差がないことを覚えておきましょう。

忘れるスピードは、人によって違ったり、意識によって変わったりはしないことはすでに説明しました。しかし、だからといって、どんな条件でも忘れるスピードは不変かという点、もちろんそうではありません。もし不変だとしたら、人によって記憶力は変わらないはずですし、学校の成績にも差が出るはずがありません。

そこでまず、忘却が早まってしまう場合から説明しましょう。どういうことをすると記憶がより早く消えてしまうのかということ。それを知れば、皆さんの勉強にとって大いに役立つ⑦ジョウホウが得られることでしょう。

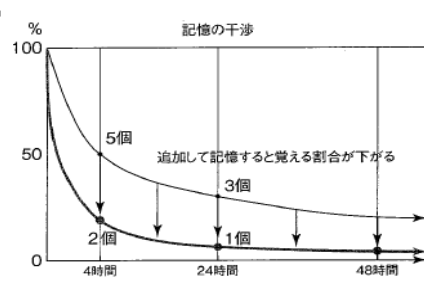
忘れるのが早まる効果もつともはつきり現れるのは、新しい記憶を追加することです。要するに知識を無理に詰めこむのです。(D)、皆さんは先ほど十個の単語を覚ええました。そこで新たに、たとえば先の単語を覚えてから一時間後に、さらに次の単語を十個覚えてみましょう。

(とがま) (もいく) (かまし) (ぎんも) (こはと)

(もそん) (しすぜ) (そひい) (でみは) (さくて)

もちろん、今回もしっかりと暗記してください。

そして今から三時間後に、はじめに覚えた単語十個を思い出してみましよう。どうでしょう。何個覚えていられましたか。きっと、一個か二個程度だと思っています。



つまり、必要以上に記憶を詰めこむと、覚えが悪くなってしまうのです。一度に覚えられる量には限度があります。もちろんこれと同時に、ついさつき覚えた新しい方の単語の記憶も妨げられているはず。後から追加した十個の単語を、実際に四時間後に思い出してみれば分かると思います。思い出せる単語数は五個以下でしょう。

このように新しい記憶と古い記憶が影響を与え合ってしまう相互作用のことを「(4)」と呼びます。一つひとつの記憶は、お互いに関与せず完全に独立しているわけではありません。むしろ関連し合い、影響し合っています。あるときにお互いを排除したり、またあるときに、お互いを結びつけて、高め合ったりしているのです。

だから間違った覚え方、たとえば不用意に大量の知識を詰めこむと、記憶が消えてしまったり、ときには記憶が混乱し曖昧あいまいになったりして、勘違いかんちがなどを起こす原因になります。

たとえば古文の授業で、先生が「百人一首を明日までに全部覚えて来なさい。テストを行います」といった無謀な③カダイを出したとします。こんなときに、無理に徹夜して百個全部を覚えようと努力するより、着実に三十個だけ覚えた方がいい点数が得られます。三十個しか勉強しないと、なんともズルい戦略ですが、しかし実際には、時間的にも体力的にも精神的にも理に適った作戦なのです。こんな理不尽な要求が出されたときは、徹夜で強引に脳に詰めこもうと試みるのは、健康上の理由からも、やめておくのが無難です。

もちろんテスト前だけでなく、ふだんの勉強でも同じことが言えます。⑤一日のうちに、新しい知識をあまりにもたくさん詰めこむのは避けましょう。そもそも勉強は「復習」に主眼を置くべきです。復習の大切さについては、またあとで説明します。とにかく、覚えられる範囲をストレスなく覚える。これが記憶の性質に適った学習方法です。

さて、そろそろ分かってもらえるころだと思います。そうです。勉強には脳の性質に沿ったよい方法と、脳の性質に逆らった悪い方法があるのです。脳の性質を無視した無謀な勉強は、時間のムダであるばかりではありません。場合によっては逆効果になります。そんな勉強なら、いつそのことしない方がまだマシです。

どれだけ勉強したかは大切な要素ではありませんが、勉強の量だけで成績が決まるものではありません。⑥それ以上に大切なことは、いかに勉強をするかという質の問題です。勉強の仕方しだいでは結果は大きく変わります。

(池谷裕二『受験脳の作り方』より)

問一 傍線部㉠～㉢について、漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 空欄Aに入る適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 数 イ 背中 ウ 文字 エ 語呂 オ 詰め

問三 空欄B～Dに入る言葉として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア また イ たとえば ウ しかし エ さて オ このため

問四 傍線部①「単語暗記の実験」について、筆者は最初の実験からわかることを三つ述べているが、それはどのようなことか。それぞれ十文字以上、二十五字以内で答えなさい。

問五 空欄②・③に入る適切な文を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(②)

ア 覚えた直後がもつとも忘れやすいことが分かります。 イ 覚えた直後から少しづつ忘れていくのが分かります。

ウ 覚えた後、二十四時間で七割忘れていることが分かります。 エ 覚えた後、四時間は忘れにくいことが分かります。

(③)

ア そのあとは忘れる速度が一定になります。 イ そのあとは忘れる速度が不規則になります。

ウ そのあとは忘れる速度が速くなります。 エ そのあとは忘れる速度が遅くなります。

問六 空欄④に入る言葉を本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤「一日のうちに、新しい知識をあまりにもたくさん詰めこむのは避けましょう」とあるが、それはなぜか。「記憶の性質」をふまえて、九十字程度で答えなさい。

問八 傍線部⑥「それ以上に大切なことは、いかに勉強をするかという質の問題です」とあるが、あなたが受験勉強をした際に工夫したことはなにか。傍線部⑥の内容をふまえたうえで、六十字以内で具体的に答えなさい。

【二】次の文章A・Bはともに小学五年生の風香と溜雨の関わりを描いた物語の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

A

「溜雨ちゃん」

思いきって、さそった。

「今日、うちに遊びにこない？」

五時限目のあと、音楽室から教室へ移動しているときだった。

溜雨ちゃんはしゃべらないけど、うたう。授業中にみんなで「まっかな秋」を①ガツシヨウしていたとき、溜雨ちゃんの口がうつすら動いているのを見たわたしは、その新しい発見にこうふんして、②いますぐ作戦を執行したくなってしまうのだった。

早まったかな、と思ったときには、おそかった。

③ろうかのとちゆうで立ちどまった溜雨ちゃんは、ぼかんとした目でわたしをながめ、せいだいにまつげをふるわせた。

「ええっと……あ、あのね、じつは、溜雨ちゃんにお願いがあつて」

「いまさらあとへは引けない。わたしは気合を入れて続けた。できれば、溜雨ちゃんに、ターちゃん……うちのおじいちゃんの謡曲うたいばかをきいてもらいたいの」

しーん。

瑠雨ちゃんのまつげがはためく音がきこえてきそうな静けさ。

「話せば長くなるんだけどね、うちのおじいちゃん、町内会の謡曲①アイコウ会に入っていて、毎日、うちでも大声で練習してるの。それがとんでもなくへたくそで、うるさくて、わたしもママもほんつと参ってるの。公害レベルでひどいの。なのに、本人は謡曲の才能があるってかちがいで、やればのびるって言いはるの。ないないってわたしとママがいくら言っても、おまえらになにがわかるんだって、ぜんぜんきいてくれないの。で、よかったら、瑠雨ちゃんの天才の……じゃなくて、その②キヤツカンのな耳でおじいちゃんの謡曲をきいてもらって、感想を教えてもらえたらって……」

ターちゃんの謡曲。マジでこまっているせいか、しゃべりだしたら止まらなくなって、わたしはひと息にまくしたてた。

「瑠雨ちゃんの見えたら、ターちゃんもすなおにきいて、目をさましてくれるかもしれないし」

瑠雨ちゃんをうちにまねいたら、一気に距離がちぎって、ぐんと仲よくなれるかもしれない。ついでに、瑠雨ちゃんがターちゃんの謡曲を「才能なし」って③ハンテイしてくれて、ターちゃんが自信をなくしてうたわなくなったなら、

③だ。

そんなよくばりな作戦だったのだけど、瑠雨ちゃんのまばたきはいつころにおさまるところをしらない。その正直なこまり顔をながめているうちに、私の頭はどんどん冷えていった。

やっぱり、むりか。それもそうか。しゃべったこともない（いつも相手から一方的にしゃべりかけてくるだけの）クラスメイトから、きゅうに遊びにこいとか、おじいちゃんの謡曲をきけとか言われたら、瑠雨ちゃんじゃなくてもだまりこんじゃうか。

「わかった。いいよ、いいよ。ごめんね」

人にしつこくないこと。最近それを心がけているわたしは、④イサギヨく引きさがることにした。

「ダメもとで言ってみただけど、やっぱり、へんだよね。わすれて、おじいちゃんの謡曲のことは」

おろかな作戦を立ててしまった。そう思ったらむしろにはずかしくなって、耳までじわっと熱くなった。

④赤い顔をふせ、瑠雨ちゃんから逃げるように足をふみだす。

そのわたしをなにかが引きとめた。

せなかのあたりに、へんな感触。ふりむくと、瑠雨ちゃんの細っこい指が、わたしのスウェットのわきばらのあたりをつまんでいた。

「瑠雨ちゃん……?」

瑠雨ちゃんの顔をのぞきこみ、あれっと思った。

長いまっげが動きを止めている。あいかかわらずこまった顔をしているけど、その目はめずらしくわたしをまっすぐに見つめて、なにかをうったえかけている。

十秒くらい目と目を見合わせてから、わたしは「ええっ」とのけぞった。

「まさか、謡曲きいてくれるの!!」

瑠雨ちゃんがこくつとうなずいた。

くると言ったら、瑠雨ちゃんはほんとうにきた。その日の学校帰りに、さっそく。

きゆうなことにうろたえていたのは、むしろわたしのほうだった。

「ほんとうにきてくれるの？ いいの？ほんとに？」

学校からうちまでの道中、なんどもなんどもわたしがきくたびに、瑠雨ちゃんはこくこくうなずきかえしてくれた。もうずっとまえから約束していたみたいに、まよいのない足どりで、わたしのあとからついてくる。

瑠雨ちゃんは、じつは⑤子なのかもしれない。

そんな思いがいちだんとふくらんだのは、家についてからだ。

うちの玄関のかべにはぶきみなポスターがでかでかとはられていて、くる人くる人、それを見るたび、こわい森へまよいこんだような顔をする。なのに、瑠雨ちゃんは動じることなく、そのポスターのまえをすずしげに通りすぎた。

それだけじゃない。ターちゃんの和室にあるカッパのお面にも、かわうそのはくせいにも、インドネシアの魔^まよけ人形にも、瑠雨ちゃんはまるでたじろがなかった。

初対面のターちゃんとも、言葉はなくても、ていねいに頭をさげてあいさつした。

「ほほう、あんたがうわさの瑠雨ちゃんかい。こんなジジイの謡曲をきいてくれるたあ、いやはや、かたじけない」

瑠雨ちゃんがうちにきた理由を知って、ターちゃんのほうが子どもみたいにはしゃいでいた。

「では、さっそく」

つかまえた獲物^{えもの}をのがすまいとばかりに、あいさつもそこそこでうたいだそうとしたから、

「ターちゃん、待った！」

わたしはあわててぎぶとんとりに走った。

マイぎぶとんに正座したターちゃんのまえに、お客さん用のぎぶとんをふたつ。わたしがその上で体育ずわりをすると、瑠雨ちゃんもとなりでひぎをかかえた。

ターちゃんはそれなりにあがっていたのかもしれない。うたいだすまでは、がらにもなくよそゆきの顔をして、気どったせきばらいなんかもしていた。

でも、いざうたいだしたら、まるきしいいつものターちゃんだった。

ってというか、⑥その音量はいつも以上だった。

この世のものとは思えないターちゃんのドラ声は、ママいわく「ボウリヨク的」で、「ハカイ的」で、「サツジ的」だ。ふつうに大声を張りあげるだけでも十分にききぐるしいのに、ターちゃんはふつうじゃない情熱だとか気迫みたいなのをこめて、大声をこえていく。まるでターちゃんのなかにものすごく声のでかい何者がいて、その何者のなかに声のでかい何者がいて——と、「うたう※マトリョーシカ地獄」を想像しちゃうほど。

たった⑦ひとりで何人分もの騒音をうけおっているせいとか、もう冬も近いのに、ターちゃんのひたいにはみるみるあせがういていく。

B

最初からうたにきこえなかったのは、おじいちゃんがおそろしくオンチだからってだけじゃなく、たぶん、そこで語られているのがむかしの言葉だからだ。「若菜つむ」とか、「なお消えがたき」とか、「雪の下なる」とか。おじいちゃんのうたに出てくるのは、百人一首にあるような言葉ばかり。ってことは——。

これは、むかしの人がつくった、むかしのうたなんだ。

そう気づくなり、ぐん、と耳の穴のおくゆきが広がった気がした。

わたしはむちゅうで音をひろった。遠い時代からやってきた、とびきりレアな言葉たち。いまの日本語よりもやわらかくて、耳がほっくりする感じ。

その言葉たちは、ゆったりとした節にのって、わたしが見たことのない世界を物語っている。

「山もかすみて」

「白雪の」

「消えしあところ」

「いかなる人にて」

「なにごとにて」

「あらおそろしのことを」

⑧ ああ、おもしろい。すごいのをひろった。

生まれてはじめての耳ざわりに、わたしはすっかりとりこになった。

こんな音があつたなんて。

こんなうたがあつたなんて。

大発見。人がむかしのうたをうたうっていうのは、むかしの音をよみがえらせるってことなんだ――。

(森絵都『風と雨』『あしたのことば』所収)より)

※マトリョーシカ：ロシアのおもちゃ。胴体が上下に分割できるようになっている人形で、中に同じように分割できる人形が複数入っている。

問一 傍線部⑧～⑩のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線部①「いまずく作戦を執行しなくなってしまうたのだった」とあるが、その「作戦」の最も大事な目的を二十字以内で答えなさい。

問三 傍線部②「ろうかのとちゅうで立ちどまった溜雨ちゃんは、ぽかんとした目でわたしをながめ、せいだいにまつげをふるわせた」とあるが、この様子から溜雨ちゃんのどのような気持ちが読み取れるか。それを説明した次の文の空欄Ⅰ・Ⅱに入る言葉を指定された字数でそれぞれ答えなさい。

○風香に突然 (Ⅰ) 十五字以内 (Ⅱ) 三字以内 (Ⅲ) 気持ち。

問四 空欄③・⑤に入る言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|---------|----------|-----------|
| ③ | ア 前代未聞 | イ 一石二鳥 | ウ 自由自在 | エ 奇想天外 |
| ⑤ | ア 鼻の利いた | イ 目の肥えた | ウ 肝のすわった | エ へその曲がった |

問五 傍線部④「赤い顔をふせ、瑠雨ちゃんから逃げるように足をふみだす」とあるが、この時の「わたし」の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア はずかしがりながらも何とか自分の思いを瑠雨ちゃんに受け止めてほしくて打ち明けたが、叶えることができなくて落ち込んでしまっている。
- イ 瑠雨ちゃんにすなおな意見を言ってもらいたくて、真つ赤な顔になりながらも瑠雨ちゃんに協力をお願いしたが、実現ができず残念がっている。
- ウ 冷静に自分がしたことを振り返り、瑠雨ちゃんにしつこいと思われるようなことはもうしたくないと思い、いさぎよくあきらめてしまおうとしている。
- エ 落ち着いて自分の行動を考えてみると、瑠雨ちゃんにおかしなお願いをしていることに気づき、はずかしくなっていたたまれない気持ちになっっている。

問六 傍線部⑥「その音量はいつも以上だった」とあるが、この様子からターちゃんのような気持ちが読み取れるか。四十字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑦「ひとりで」に係る言葉として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何人分もの イ 騒音を ウ うけおっている エ せいか

問八 傍線部⑧「ああ、おもしろい。すごいのをひろった」について、次の各問いに答えなさい。

(1) だれがこのように感じているのか。登場人物の名前を答えなさい。

- (2) 「すごい」「とは具体的に何のことを言っているのか。本文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。
- (3) どのようなところを「おもしろい」と感じているのか。本文中の言葉を使って五十五字以内で答えなさい。

受験番号

名前

| 一 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|----|---|---|---|---|----|-----|-----|---|---|---|----|----|---------|------|
| 問八 | | 問七 | | | | | 問六 | 問五 | 問四 | | | | 問二 | 問一 | | |
| | | 起 | が | と | て | 一 | 記 | ② | い | 忘 | ト | 忘 | な | 忘 | エ | ① |
| | | こ | 混 | 、 | い | つ | 憶 | ア | こ | れ | ロ | れ | い | れ | 問三 | いのつて |
| | | す | 乱 | 記 | る | ひ | の | ③ | と | る | し | る | こ | る | B | |
| | | 原 | し | 憶 | の | と | 干 | エ | 。 | ス | ル | こ | と | 速 | ウ | ② |
| | | 因 | 曖 | が | で | つ | 渉 | 各4点 | | ピ | で | と | 。 | 度 | C | 深夜 |
| | | に | 味 | 消 | 、 | の | 5点 | | | し | き | は | | は | エ | |
| | | な | に | え | 不 | 記 | | | | ド | な | 、 | | 人 | D | |
| | | る | な | て | 用 | 憶 | | | | は | い | 意 | | に | イ | ③ |
| | | か | つ | し | 意 | は | | | | 一 | こ | 識 | | よ | 問二(2点) | 厳密 |
| | | ら | た | ま | に | 関 | | | | 定 | と | で | | つ | 問三(各3点) | |
| | | 。 | り | つ | 大 | 連 | | | | で | 。 | は | | て | | ④ |
| | | | し | た | 量 | し | | | | は | | コ | | 違 | | 情報 |
| | | 8点 | て | り | の | 合 | | | 各4点 | な | | ン | | わ | | 課題 |
| | | | 、 | 、 | 知 | い | | | | | | | | | | |
| | | | 勘 | と | 識 | 、 | | | | | | | | | | |
| | | | 違 | き | を | 影 | | | | | | | | | | |
| | | | い | に | 詰 | 響 | | | | | | | | | | |
| | | | な | は | め | し | | | | | | | | | | |
| | | | ど | 記 | 込 | 合 | | | | | | | | | | |
| | | | を | 憶 | む | つ | | | | | | | | | | |

| 二 | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|-----|----|---|----|---------|----|----|----|--|--|
| 問八 | | | 問七 | 問六 | | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | | | |
| (3) | | (2) | (1) | ウ | の | 瑠 | ③ | I | 瑠 | ① | | |
| な | っ | い | び | 遠 | で | 雨 | イ | 家 | 雨 | 合唱 | | |
| い | く | ま | き | い | 、 | ち | ⑤ | に | ち | | | |
| 世 | り | の | り | 時 | ふ | や | ウ | 遊 | や | | | |
| 界 | す | 日 | レ | 代 | だ | ん | 問五 | び | ん | ② | | |
| を | る | 本 | ア | か | ん | が | エ | に | を | 愛好 | | |
| 物 | 感 | 語 | な | ら | 以 | 自 | | こ | 家 | | | |
| 語 | じ | よ | 言 | や | 上 | 分 | 問四(各3点) | な | に | | | |
| っ | の | り | 葉 | っ | に | の | 問五(5点) | い | ま | ③ | | |
| て | 音 | も | た | て | は | 歌 | | か | ね | 客観 | | |
| い | で | や | ち | き | り | 声 | | と | い | | | |
| る | 、 | わ | (。) | た | き | を | | さ | て | | | |
| と | 自 | ら | | 、 | る | き | | そ | 仲 | ④ | | |
| こ | 分 | か | 5点 | と | 気 | き | | わ | 良 | 判定 | | |
| ろ | の | く | | | 持 | に | | れ | く | | | |
| 。 | 見 | て | | | ち | き | | た | な | | | |
| | た | 、 | | | 。 | て | | II | る | ⑤ | | |
| | こ | 耳 | | | | く | | 戸 | こ | 潔く | | |
| 8点 | と | が | | | | れ | | 惑 | と | | | |
| | の | ほ | | | | た | | う | 。 | | | |